

6 本時の目標 一川さんが挙げてある事例について、順序や事例の内容に着目することを通して、四つの事例を用いた意図を捉えることができる。

7 本時の展開 (5 / 7)

過程	児童の学習活動と㊦教師の働きかけ	指導・援助とその意図												
つかむ	<p>1 単元の目的を確かめ、本時の位置を理解する。</p> <p>㊦ 「この単元では、筆者の意図を捉えて自分の考えを発表することを目的としていますね。一川さんは、どのような事例を挙げていましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ目は、時間の進み方に関すること、2つ目は、時間帯に関すること、3つ目は、身の回りの環境に関すること、4つ目は感じ方が違うということです。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>㊦ 「4つも事例があったのですね。一川さんはどうしてこんなにも事例を挙げているのでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一川さんの考えがあるのだと思います。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">(課題) 一川さんが四つも事例を用いたのはどうしてだろうか。</div>	<p>① 前時までの学びについて、掲示を通して確かめることで、本時考えること(筆者の意図)に対して、見通しをもって取り組むことができるようにする。</p> <p>② 四つの事例の内容を確かめ、「どうしてこれだけ必要だったのか。」と問うことで、筆者の意図に対して課題意識をもつことができるようにする。</p>												
ふかめる	<p>3 学び方を学ぶ。</p> <p>㊦ 「1つ目の事例には、どうしてこのような事例を挙げていると思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もがイメージしやすいものにして、この先を読ませようと考えて書いたのだと思う。わけは、3段落の初めに「分かりやすい例が…」ということが書かれているからです。前の授業でもやったけど、休み時間とか、好きな教科の授業は早く終わるように感じるけど、あまり好きではない教科は長く感じることをイメージしやすいし、そういう内容で書かれていたら、読者も読み始めやすいと考えたのだと思います。 <p>4 教材文と対話する。</p> <table border="1" data-bbox="181 1077 1118 1451"> <thead> <tr> <th></th> <th>事例2</th> <th>事例3</th> <th>事例4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着眼点</td> <td>・実験①科学的な見方 ・グラフを示した意図</td> <td>・実験②科学的な見方 ・図を示した意図</td> <td>・読者を誘う意図</td> </tr> <tr> <td>意図</td> <td>・日常生活の1日の実験結果を示すことで、読者に自分の朝や寝る前の様子を思い起こさせたいと考えた。 ・「実験①のグラフは…」は、変わり方を見やすくするために示した。</td> <td>・刺激の多さについて、具体的に示すための実験結果を伝えようと考えた。 ・図を示すことで、読者が実験内容について理解できるようにしたいと考えた。</td> <td>・科学的な根拠だけでなく、人の感覚でも違うことを示すために、実際に体験してもらおうと考えた。だから、「ここで、簡単な実験をしてみましょう。」と読者を誘うような一文がある。</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 仲間と対話する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例には、それぞれ意図があって、読み手に伝わるようにグラフや図を用いている。これは、読者にいろいろな見方をしてほしいという意図があったのだと思う。 <p>㊦ 「事例2、3は科学的な見方として理解してもらうために示したのは、分かったけど、事例4は本当に必要だったのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8段落にある一川さんの主張は、「私たちに必要なのは…」ということだから、一人一人感覚が違う「心の時間」を頭に入れてほしいということだと思う。だから、4つ目の事例があることで、人によって感覚が違うからこそ、お互いの「心の時間」を大切にしてほしいということが読者に伝わると考えて書いたのだと思う。 		事例2	事例3	事例4	着眼点	・実験①科学的な見方 ・グラフを示した意図	・実験②科学的な見方 ・図を示した意図	・読者を誘う意図	意図	・日常生活の1日の実験結果を示すことで、読者に自分の朝や寝る前の様子を思い起こさせたいと考えた。 ・「実験①のグラフは…」は、変わり方を見やすくするために示した。	・刺激の多さについて、具体的に示すための実験結果を伝えようと考えた。 ・図を示すことで、読者が実験内容について理解できるようにしたいと考えた。	・科学的な根拠だけでなく、人の感覚でも違うことを示すために、実際に体験してもらおうと考えた。だから、「ここで、簡単な実験をしてみましょう。」と読者を誘うような一文がある。	<p>④ 事例2、3について、「筆者がなぜこのグラフ(図)を用いようと思ったのか。」と問いかけ、文章で書くよりもグラフ(図)で示した方が、と考えた筆者の意図に気付くことができるようにする。</p> <p>④ 事例4について、「ここで、簡単な実験をしてみましよう。」という言葉に着目することで、読者に体感的に考えてほしいと考え、誘っていることに気付くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⑤ それぞれの事例について一川さんの意図を考え、いろいろな見方をしてほしいという思いに気付いた子どもに、「事例4は、本当に必要だったのだろうか。」と問う。この問いをきっかけとして、主張に立ち返り、一人一人が違う感覚で時間と向き合っているからこそ、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使えるようになってほしいという思いを伝えるために書いたという意図に気付くことができるようにする。</p> </div>
	事例2	事例3	事例4											
着眼点	・実験①科学的な見方 ・グラフを示した意図	・実験②科学的な見方 ・図を示した意図	・読者を誘う意図											
意図	・日常生活の1日の実験結果を示すことで、読者に自分の朝や寝る前の様子を思い起こさせたいと考えた。 ・「実験①のグラフは…」は、変わり方を見やすくするために示した。	・刺激の多さについて、具体的に示すための実験結果を伝えようと考えた。 ・図を示すことで、読者が実験内容について理解できるようにしたいと考えた。	・科学的な根拠だけでなく、人の感覚でも違うことを示すために、実際に体験してもらおうと考えた。だから、「ここで、簡単な実験をしてみましょう。」と読者を誘うような一文がある。											
まとめる	<p>6 学びを振り返り、次時につなげる。</p> <p>㊦ 「一川さんには、どのような意図がありましたか。キーワードをもとにして、書いてみましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">一川さんが四つも事例を用いたのは、グラフや図で具体的に示したり、読者を誘ったり、読み手を引きつけることができるように文章を組み立てたりすることで、1つの見方だけでなく、いろいろな面から物事を考えてほしいと考えたからだと思う。</div> <p>㊦ 本時を振り返り、価値付ける。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一川さんは、分かりやすい事例から書くことで、読み手を引き付けようとしたり、科学的な根拠についてグラフや図を用いて理解しやすくしたりして、様々な面から物事を考えてほしいという筆者の意図を捉えている。 <p>【思(1)ア 発言・ノート】</p> </div>												

